尿路感染症～これからの時期注意が必要～

【原因】
尿路感染症とは、尿の通り道（尿路）である腎臓、尿管、膀胱、尿道において、何らかの病原体が侵入し炎症を起こす病気です。病原体はほとんどの場合が大腸菌などの細菌で、肛門や陰部から尿道、膀胱に侵入し炎症に至ります。

【診断】
感染部位によって以下の病名に分けられます。

●膀胱炎

女性がかりやすい尿路感染症で、特に性的活動性の高い 10 代後半～40 代に多く見られます。女性は肛門や膣が尿の出口（尿道口）に近く、男性と比較し尿道が短いため膀胱に細菌侵入しやすいのが原因です。排尿することで細菌は排泄されますが、飲水を控えて排尿の頻度が少なかったり、尿を我慢し膀胱内に尿が停滞する時間が長かったりすることで病態は悪化していきます。症状は、尿が近く少量しか出ない（頻尿）、排尿してもスッキリしない（残尿感）、排尿時、排尿後の尿道の痛み、違和感（排尿時痛）といった膀胱刺激症状を認めます。多くの場合発熱症状は認めません。

●腎盂腎炎

腎臓で作られた尿が尿路に出てくる腎盂の尿が汚染されることで腎臓が感染する病気です。原因は大きく二つに分けられます。

（１）先行して膀胱炎を起こし、尿管を逆流して腎盂の尿が汚染される
（２）何らかの原因で腎臓からの尿の流れが停滞し腎盂の尿が汚染される

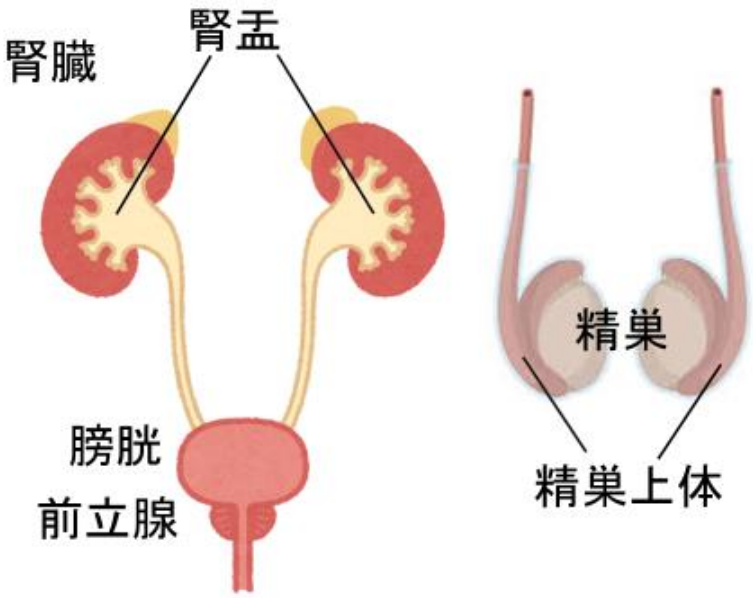
（２）の原因としては尿管結石、尿管狭窄、排尿困難による膀胱内尿貯留などが多くみられます。

症状は、炎症を起こした腎臓部（側背部）の疼痛、38.5 度以上の高度発熱を認めます。

●前立腺炎、精巣上体炎

前立腺、精巣上体は男性だけが持つ臓器ですので男性がかかる病気です。前立腺は膀胱の下にあり尿道を取り囲むようにして存在しています。精巣上体は精巣の周囲に付属しており、精巣で作られた精子が尿道に至るための通り道です。どちらの臓器も尿道とつながっていて、汚染された尿により逆行性に感染に至るのがそれぞれ前立腺炎、精巣上体炎です。多くの場合、前立腺肥大症などによる排尿困難、残尿過多から膀胱内の尿が汚染されることが原因となります。

症状は前立腺炎の場合は会陰部（陰嚢と肛門の間）の圧痛、精巣上体炎の場合は感染側の陰嚢の発赤、腫脹、疼痛を認めます。どちらも腎盂腎炎同様多くの場合 38.5 度以上の高度発熱を認めます。



【検査】

尿検査、血液検査、画像検査を行います。尿検査では尿中に白血球や細菌を多数認めます。また血液検査では白血球など炎症反応が亢進します。必要があれば超音波検査、レントゲン検査で尿路やそれぞれの臓器の状態を確認します。

【治療】

膀胱炎は充分な飲水を促した上で、必要があれば抗菌薬の内服治療を行います。腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎は 38.5 度以上の高度発熱を認めることが多く、基本的に入院での抗菌薬治療が必要です。体調悪化により飲水、摂食が難しい場合は点滴治療も行います。特に高齢の方や、糖尿病等の基礎疾患のある方は重症化することもあり注意が必要です。

【注意点】

尿量を確保するため充分な水分摂取が必要です。また膀胱内に長時間尿が停滞することを防ぐため、尿はあまり我慢しすぎないことも大切です。これから暑い時期になると体から水分が奪われ、必然的に尿量は減少します。特にこまめな水分摂取を心がけるようにしましょう。

【泌尿器科診療部長　上井　崇智】